



Osaka Mozart Ensemble

63. Konzert

Orchester
Konzertmeister

Osaka Mozart Ensemble
Masato Ohnishi

14:00 Uhr Samstag, 23. Juli 2016

Neyagawa Municipal Arukas Hall

《Programm》

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

ヴォルフガング アマデウス モーツァルト

Divertimento für zwei Violinen, Viola, Baß, Oboe und zwei Hörner D-Dur KV 251 (1776)

ディヴェルティメント 第11番 二長調

- I. MARCIA ALLA FRANCESE
- II. Molto allegro
- III. MENUETTO mit Trio
- IV. Andantino – Adagio – Allegretto
- V. MENUETTO: *Tema con Variazioni* - VAR. I - VAR. II - VAR. III
- VI. RONDEAU: Allegro assai – Adagio - Allegro *assai*
- VII. MARCIA ALLA FRANCESE

Serenade „Serenata notturna“ D-Dur KV 239 (1776)

セレナード 第6番「セレナータ・ノットウルナ」二長調

- I. MARCIA:Maestoso
- II. MENUETTO mit Trio
- III. RONDEAU: Allegretto – Adagio – Allegro

1.violine solo: 大西 正人

2.violine solo: 田邊 明子

1. Bratsche: 能勢 徹

Kontrabaß: 大川 宏明

…… 休憩 Pause ……

Serenade D-Dur „Haffner -Serenade“ KV 250 (248b+249) (1776)

Marsch KV 249 und Serenade KV 250 (248b)

セレナード 第7番「ハフナー・セレナード」ニ長調

- I. MARCIA: Maestoso
- II. SERENATA: Allegro maestoso – Allegro molto
- III. Andante
- IV. MENUETTO mit Trio
- V. RONDEAU: Allegro
- VI. MENUETTO GALANTE mit *Trio*
- VII. Andante
- VIII. MENUETTO mit Trio I und Trio II
- IX. Adagio – Allegro assai
- X. MARCIA: Maestoso

Violine solo: 大西 正人

《Einführung》

Intendant: 武本 浩

Konzertmeister: 大西 正人

Violinen: 久保 聡一 佐藤 奈津子 清水 雅代 高橋 淑子 田邊 明子

筒泉 直樹 濱田 利正 藤井 聡子 横小路 美貴子

Bratschen: 能勢 徹 河合 士郎 堀井 博子 塩沢 まり子

Violoncelli: 加納 隆 岩田 暢子

Kontrabaß: 大川 宏明

Flöten: 門司 真美 阿部 葉子

Oboen: 小林 靖之 利谷 久美

Fagotte: 尾家 祥介 服部 真貴子

Hörner: 加藤 仁 北脇 知己

Trompeten: 山崎 雅夫 中嶋 香織

Pauken: 木村 祐



大阪モーツァルトアンサンブル *Osaka Mozart Ensemble*

1984年、大阪大学大学院生を中心に発足。以後、京阪神の各大学オーケストラOBを結集し、年間4～5回の演奏活動を続けている。指揮者を置かずに自発的なアンサンブルの実現を目指す。演奏会では主にモーツァルトの作品を取り上げ、最新の研究成果に基づいて編纂された原典版を使用し、当時の一般的な編成で演奏している。1986年6月に行った特別演奏会では、ヴィーン・フィルのアルフレート・プリント氏、アダルベルト・スコッチ氏等と共演し、好評を博した。1986年から1990年にスペトラ・プロティッチ氏と4回共演。1988年5月には、小山亮氏と新モーツァルト全集版によるホルン協奏曲全曲をレコーディングした。1989年から1994年、関西モーツァルト協会例会に7回出演。1991年12月5日、大阪カテドラル聖マリア大聖堂におけるモーツァルト没後200年記念追悼ミサでレクイエムを演奏した。1995年にはザルツブルク大聖堂でミサに出演、モーツァルテウム大ホール、ヴィーン・ミリアーテン教会で演奏会を行った。1996年から2000年にかけてモーツァルト劇場例会に5回出演。2004年、指揮者なしでのモーツァルトの交響曲全曲演奏を20年かけて完結した。

次 回 予 告

～大阪モーツァルトアンサンブル第 64 回定期演奏会～

日時：2017年1月22日（日）午後2時開演（予定）

会場：豊中市立アクア文化ホール

テノール：松原友（二期会）

テーマ：「アーダムベルガーとモーツァルト」

曲目（予定）：

「劇場支配人」序曲 KV 486

「どうか、詮索しないでください」KV 420

「あわれな男よ！ 夢なのか、それともうつつなのか？ /あたり吹くそよ風よ」KV 431(425b)

カンタータ「懺悔するダビデ」より「数知れぬ苦しみのさなかで」KV 469

「後宮からの誘拐」（抜粋）KV 384

《Einführung》

1776 年、20 歳のモーツァルト

大阪モーツァルトアンサンブル 武本 浩

人生の 3 分の 1 を旅で過ごしたモーツァルトであるが、1775 年 3 月 8 日にミュンヘンから故郷ザルツブルクに戻ってからの 2 年半は、ザルツブルクの宮廷音楽家として過ごすことになる。モーツァルト父子が遺した膨大な書簡は、作曲の経緯、モーツァルトの意図、当時の演奏習慣や音楽事情など、様々な情報を与えてくれる。しかし、残念なことに、この時期は旅行中と違って手紙を出す相手がいない。今から 240 年前、1776 年、20 歳のモーツァルトはどのように生きたのであろうか。当時、モーツァルトはザルツブルクの宮廷音楽家として、セレナード、フィナーレムジーク、カッサシオン、ディヴェルティメントなどの機会音楽（冠婚葬祭、晩餐、その他の行事など特定の機会や行事のために作曲された音楽）や教会のための音楽を数多く作曲している。

父レーオポルトによりセレナータ・ノットウルナと曲名が書き入れられた 2 つのオーケストラのためのセレナードは、1776 年 1 月に作曲された。セレナータを手元の伊和辞典で引くと、[音楽用語]セレナード（夕べに恋人などの窓の下で歌い奏でる夜の調べ）、夜曲、夜曲の歌詞、とある。一方、ノットウルナ（ノットウルノ）は、夜の、夜間の、夜祷、[音楽用語]夜想曲、ノクターンとある。セレナータ・ノットウルナとは、夜の夜曲で重複表現なのであろうか。このセレナータ・ノットウルナ 二長調 KV 239 は、バロック時代のコンチェルト・グロッツィ（合奏協奏曲）を思わせる様式で、2 本のヴァイオリン、ヴィオラ、ヴィオローネ（コントラバスの前身）からなるコンチェルティーノ（独奏部）とヴァイオリン 2 部、ヴィオラ、チェロ、ティンパニで編成されるリピーエーノ（合奏部）からなっている。総譜は 10 段の五線紙に書かれ、2 段目から順に独奏第 1 ヴァイオリン、独奏第 2 ヴァイオリン、第 1 ヴィオラ、ヴィオローネ、第 1 ヴァイオリン、第 2 ヴァイオリン、第 2 ヴィオラ、チェロ、ティンパニとなっている。ちなみにチェロは Violoncelli と複数形になっており、複数の楽器が使用されたと考えられる。モーツァルトのセレナードなど機会音楽の低弦は、チェロではなくコントラバスが使用されたことから考えると、この曲は他の機会音楽とは異なる用途で演奏されたのかもしれない。

モーツァルトと同じ年で親しかったジークムント・ハフナー 2 世（1756-1787）は、妹マリア・エリーザベトの婚礼前夜祭の音楽をモーツァルトに委嘱した。いわゆるハフナー・セレナード 二長調 KV 250 (248b)である。セレナードの前後に演奏される行進曲 二長調 KV 249 は 7 月 20 日に完成した。ザルツブルク宮中顧問官をつとめるヨハン・バプティスト・ヨーゼフ・ヨーアヒム・フェルディナント・フォン・シーデンホーフェンの日記にこの曲の記載がある。

7 月 21 日。食後、婚礼の奏楽を聴きに行ったが、これは息子のハフナー氏が妹のリーゼルのために作らせたものだった。曲はモーツァルトのもので、ロレート教会の傍の庭園で演奏された。

7 月 22 日。今日、市長のハフナー家のリーゼルとツェーツイ商会を買い取った商人のシュペートとの婚儀がとりおこなわれた。

マリーア・エリーザベト（リーゼル）は大商人でザルツブルク市長でもあった故ジークムント・ハフナー（1699-1772）の娘で、運送業者フランツ・クサヴァー・シュペートと結婚した。パリ＝ロードロン通りにあるハフナー家の夏用の別荘の庭で演奏された。マリーア・エリーザベト・シュペート夫人はわずか5年後の1781年に若くして亡くなった。モーツァルトは、活動の場をヴィーンに移した際、このセレナード全8楽章のうち、ヴァイオリン協奏曲になっている第2楽章から第4楽章を除いた5つの楽章を、交響曲として転用することになる。

ハフナー・セレナードが演奏されたわずか4日後、7月25日に姉ナンネルルのためにディヴェルティメント 二長調 KV 251が作曲される。7月26日はナンネルルの霊名の祝日で、前夜に祝事が行われた。そのための音楽である。モーツァルトは母マリーア・アンナとパリに旅行中、1778年7月3日、母と死別する。彼が、7月18日、20日付で父レーオポルトに宛てた手紙に以下のように記されている。最愛の母を異国の地で失った直後の家族の絆が感じられる。

お祝いの言葉がこんなに遅くなってしまったことをどうぞお許してください。——でも、やはりお姉さんにちょっとした前奏曲を贈りたいと思ったのです。

封筒の内側には、姉へ追伸が記されている。

最愛のお姉さん！

あなたの霊名の祝日がきましたね！ —（中略）— 数年前のように、音楽の贈り物をプレゼントできなくて残念です。——でも、心を同じくする二人の情愛こまやかな姉弟が、それぞれ考えたり思ったりしていることをまた心おきなく話し合える仕合せな時が、そう遠くないことを期待したいものです。

それに対し、9月10日付の父からモーツァルトに宛てた手紙に、追伸として姉から返事があった。

前奏曲のことで私、自分でお礼を言いたいと思いますし、あなたの霊名の祝日にザルツブルクでお祝いしたいと思っています。

姉のために作曲したディヴェルティメントであるが、フィナールムジーク（最後の音楽）としても使用されたい。フィナールムジークは、8月の初旬の水曜日に行われる卒業演奏のことである。ザルツブルク大学の学生たちが専門課程に進む前に、2年間の教養課程の最終試験終了後に大司教と教授たちに感謝をこめて演奏する。ザルツブルクに住む父レーオポルトからマンハイムに旅行中の息子に宛てた1778年11月23日付の手紙に、以下のようにこのディヴェルティメントのことが記載されている。

7時には宮殿に行って、フィアラはコンチェルトを一曲吹きましたが、初めのシンフォニーはおまえのフィナールムジークのシンフォニーで、オーボエのソロつきのアンダンテとトリオを持っています。

珠玉の名曲を数々と生み出していた 20 歳のモーツァルトであるが、9 月 4 日、モーツァルトよりボローニャのジョヴァンニ・バッティスタ・マルティーニ師に宛てた手紙には、ザルツブルクでの音楽事情に対する不満が述べられている。

私どもがこの世に生きておりますのは、たえず勤勉に学ぶためであり、また論議をたたかわせることによりおたがいに啓蒙しあい、学問ならびに芸術をたえず前進させんがために努力を続けるためであります。

翌年 8 月 1 日に、モーツァルトはコロレド大司教に辞職願を出し、9 月 23 日、母とザルツブルクを発ってマンハイム、パリに向うのであった。

参考文献

1. Günter Haußwald: Wolfgang Amadeus Mozart, Neue Ausgabe sämtlicher Werke, Serie IV: Orchesterwerke, Werkgruppe 12: Kassationen, Serenaden und Divertimenti für Orchester, Band 3, Bärenreiter Verlag (1962).
 2. Walter Senn: Wolfgang Amadeus Mozart, Neue Ausgabe sämtlicher Werke, Serie IV: Orchesterwerke, Werkgruppe 12: Kassationen, Serenaden und Divertimenti für Orchester, Band 4, Bärenreiter Verlag (1976).
 3. オットー・エーリヒ・ドイチュ, ヨーゼフ・ハインツ・アイブル 編, 井本响二 訳, ドキュメンタリー モーツァルトの生涯, シンフォニア (1989) .
 4. 海老沢敏, 高橋英郎, モーツァルト書簡全集 III, 白水社 (1987) .
 5. 海老沢敏, 高橋英郎, モーツァルト書簡全集 IV, 白水社 (1990) .
-

～ 今後の演奏会のご案内 ～

亀岡混声合唱団第 27 回定期演奏会

日時：2016 年 11 月 27 日（日）午後 2 時開演

会場：ガレリアかめおか 響ホール

（京都府亀岡市余部町宝久保 1-1）

合唱：亀岡混声合唱団

弦楽：大阪モーツァルトアンサンブル

曲目

ディヴェルティメント 変ロ長調 KV 137 (125b)

ミサ・ブレヴィス 変ロ長調 KV 275 (272b) ほか

大阪モーツァルトアンサンブル第 65 回定期演奏会

日時：2017 年 7 月 22 日（土）午後 2 時開演（予定）

会場：豊中市立アクア文化ホール

曲目（未定）

石澤整形外科 (医師：石澤 命仁)

診療科：整形外科、外科、リハビリテーション科、リウマチ科

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 (9時~12時)	○	○	○	○	○	○
午後 (5時~7時)	○	○	X	○	○	X

豊中市本町 7 - 2 - 1 6
TEL : (06) 6852-3371
FAX : (06) 6852-3362